

**秋の風物詩！
産業まつり開催**



10月4日、毎年恒例の産業まつりが役場前駐車場で開催され、実りを迎えたばかりの特産品や様々な料理、冬の必需品などが販売され、それらを買求める来場者で賑わいました。

秋晴れに恵まれた会場では、農業者や町内外事業所による店舗が会場を囲むように立ち並び、特産品のタイムセールには長蛇の列が出来るほどの盛況ぶりでした。

このほか、豪華景品の当たる大ビンゴ大会や歌謡ショーなど様々な催しが行われ、恒例の鮭の掴み取りでは、子ども達がいけすの中に放たれた鮭を夢中で追いかけて、秋鮭の尻尾を元気につかみ取っていました。

**豊かな森を次の世代へ
植樹祭が開催**

10月8日、地域の植生を活かした「豊かな海づくりのための植樹祭」が上ノ国町日本海グリーンベルト構想推進協議会主催（花田英一会長）のもと、上ノ国中学校横の敷地で行われ、約300人の方々が参加しました。

この植樹祭は、近年問題となっている海の磯焼け解消や将来の地域の担い手である子ども達に豊かな自然を残すことを目的に毎年続けられており、今年もカシワやミズナラなど苗木2000本が植えられました。

本町の植樹は、地元の木の実から育てた苗木を植えることに重点を置き、昔からの植生をそのまま増やしていくという考え方が基本となっており、上ノ国中学校の近辺には、平成23年から延べ1万3500本の苗木が植えられ、既に1畝を超える高さに育っている木もあることから、今後順調に成長していくことが期待されています。



湯ノ岱駅が1日開業



10月11日、旧JR江差線を偲ぶミニイベント「湯ノ岱駅まつり」が民間団体「北海道夢れいる倶楽部」（小橋達也代表）主催のもと行われ、道内外からの鉄道ファンや地域の方々が訪れました。

このイベントは、昨年廃線となったJR江差線本町区間で唯一の有人駅だった湯ノ岱駅を1日だけ復活させようというコンセプトで、残った路線部分を使った2人乗りトロッコの運行や江差線グッズの販売、写真展等が行われました。

会場では、湯ノ岱駅舎内に懐かしい誘導音声流れ、駅長に扮するイベントスタッフが廃線の雰囲気醸し出ししており、来場者はかつての江差線を思い出して、懐かしんでいる様子でした。

**本町と道新檜山会の間で
新たな見守り協定**

10月14日、本町と道新檜山会（隅田秀男会長）との間で、地域の高齢者等の見守りに関する協定が締結されました。

この協定は、檜山管内で北海道新聞の配達を行っている販売所の団体「道新檜山会」が、新聞配達業務中に配達先で地域の異変を発見した場合、行政機関と共に対応していくという内容のものです。

協定締結にあたって、道新檜山会隅田会長からは「新聞は必ず朝と夕方に配達されます。1日2回の見守り活動で、私達も地域の力になりたい」との心強い言葉もありました。

これで本町が結んだ見守り協定は、江差信金、コープさっぽろに続き3団体目となります。

今後もこうした活動によって、地域の見守り活動を強化していく予定です。

